

1995年11月3日 西表島大富林道

大富で調達した幕の内弁当を自転車荷台に置いて立ったままの昼食をとる。飲み物はあっさり味のジャワティーがのどの渇きをいやしてくれる。もちろんゴミはすべて持ち帰りだ。元気が出たところで帰路側の路面をヒョイヒョイと飛ぶみない動きのシロチョウが目にとまる。突然そばの茂みに飛込むように移動したかと思うとピタッと葉上に静止している。こんな独特の、かつ敏捷な動きはこれまでに経験がないぞ、と近づいてハッとす。与那国島には定着しているという台湾シロチョウではないか。ネットを近づけるとさっと場所を変え、なにを決心したのか、いきなり道路と平行にどンドン坂道上方へと逃飛行を開始。これはついていかねばならぬ。幸い昼食を済ませたばかりでエネルギーにはこと欠かない。もともと短距離競争には自信がある。短い足の限界一杯にストライドをとってグイグイと迫る。急坂の登りで加速度は期待できない。しかし珍蝶はほしい。この強い願望のみが力を与えてくれるのだろう。蝶との距離はどンドン縮まりついには蝶を追い越して前方からネットが振れるまでに先行する。そのことを知るか知らずにか、相手はあいかわらず道路と平行にただ一定方向に進んでくる。その飛んでくる前方からすーっとネットを流すと絶好のタイミングで入ってくれる。後翅裏面の黄色がすばらしく鮮やか

で、図鑑の写真だけでは台湾シロチョウがこれほどまでに美しいとは全く想像していなく興奮がなかなか収まらない。どうしてあそこまで走れたのか、今思いおこしてもなにか奇跡が起きたとしかいいようがない。橋にまで戻り、さらに奥までルンルン気分でどンドン入ってゆく。あとで自転車でも来られたのにと気がつくが、このときばかりは距離も勾配もまったく気にならずにその足の軽いこと。吸水場所を求めて降りてきたのだろうか路面すれすれに飛んでくるヤエヤマイチモンジの雌が、自然体のまま振るネットにすんなりと納まる。余計な力が入らないのがいい。これも台湾シロチョウを苦勞して捕らえることができた余裕のなせるわざか。



Nov.3,1995 西表島大富林道

Nov.3,1995 西表島大富林道
♂裏面

2012年12月2日：与那国島アギンダ；後翅が傷んだクロマダラソテツシジミ、ミズイロナガボソウのムラサキの花を訪れた台湾シロチョウの低温期型♀、センダングサ周辺をフワリフワリと飛び交うクロテンシロチョウ、リュウキュウアサギマダラなど可能な限りのビデオ撮影を



している間に、妻が「こんなチョウが採れたよ」と見せにきたのは見事に新鮮なシロミスジだ。